

《技術報告》

核医学診療施設における液体状放射性廃棄物管理状況の アンケート調査

零石 一也*1	渡辺 浩*2	成田 浩人*3	金谷 信一*4
小林 一三*5	山本 哲夫*6	塚田 勝*7	岩永 哲雄*8
池淵 秀治*8	草間 経二*8	田中 守*9	並木 宣雄*10
藤村 洋子*10	堀越亜希子*10	井上登美夫*1	日下部きよ子*4

要旨 医療現場における放射性同位元素の排水管理状況を明らかにし、より合理的な放射線管理への提言の基礎資料とすることを目的として平成 14 年度厚生労働省科学特別研究事業「医療行為に伴い排出される放射性廃棄物の適正管理に関する研究班」ワーキンググループ 1-2 として全国の核医学診療施設を対象にアンケート調査を実施した。対象は 1,215 施設、回答数(率) 642 施設(52.8%)を得た。その結果、ほとんどの施設で現行法令に基づいた排水中放射性同位元素の濃度限度比は 1 未満を示し法令の規定内であった。また、米国の液体状放射性同位元素の下水への放出規定をモデルとし、放射性同位元素の使用量と事業所の 1 ヶ月排水量から排水中放射性同位元素濃度比を算出したところ、専用治療病室を有さない 499 施設のうち 473 施設において、放射性同位元素の使用量と事業所の 1 ヶ月排水量から算出した排水中濃度限度比の和は 1 未満であった。特に 1 か月事業所排水量が 25,000 m³ 以上の施設では実際の使用量で算出した濃度限度比の和はすべての施設で 1 未満であった。

(核医学 41: 109-121, 2004)